

災害時の強い味方！ 暮らしを守る拠点防災備蓄倉庫

田原市は、発生が予想される東海地震や東南海・南海地震に備え、「災害に強い安全なまちづくり」を目指し、さまざまな防災対策を進めています。今回、災害時に中核的な物資の供給拠点となる『田原市報民倉』を田原町殿町に整備しました。名称は、江戸時代に田原藩が整備した『報民倉』にあやかったものです。なお、市の防災備蓄倉庫としては、すでに市内10カ所に校区防災倉庫を設置しており、着々と安全・安心のまちづくりを進めています。



『田原市報民倉』の概要

耐火建築物：地上1階（鉄骨造）
地下1階（RC造）

述べ床面積：288.96㎡

非常用電源設備設置

『田原市報民倉』の主な備蓄品

生活に必要な物資

非常用食料（5万5000食）・毛布・テント・ポリ容器など

救助・救出に必要な物資

救助用ロープ・スコップ・非常用発電機・応急ポンプなど

防災対策室 ☎ 23局3548



田原市博物館に展示されている『報民倉』の額（重要文化財）

1 拠点防災備蓄倉庫『田原市報民倉』が完成！
2 7月28日は三河湾浄化の日です
3 菜の花エコプロジェクト進行中！

～渡辺華山の功績・田原藩の『報民倉』～

天保6年（1835）、田原藩は渡辺華山わたなべ かせんの指導により、きたるべき飢饉きんに備え、穀類などを備蓄する救民のための倉庫『報民倉』を、現在の田原市民俗資料館の南に企画しました。建設は、身分・年齢・性別を越えた領民の奉仕によって進められ、まさしく官民一体となって取り組んだ飢饉対策事業でした。田原藩は『報民倉』により、天保の飢饉（天保7・8年）において1人の餓死者、流亡者も出すことなく、翌9年には、幕府から全国で唯一表彰を受けました。